

## 令和4度 学校運営協議会活動報告

申請者	増田 智子	
申請日	令和 5年 1月 6日	11時 50分
学校名	生駒市立俵口小学校	
実施日	第 2 回	令和 4年 10月 28日
参加運営協議会委員名	坂上 伸治	境 美穂
	吉村 賢次	樋口 功
	櫻木 茂伸	中川 基貴
	平田 敦子	増田 智子
	奥本 恵	松尾 仁世
校長が求めた意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価（児童アンケート）の結果について評価の妥当性及び、前期教育活動についての評価と助言</li> </ul>	
運営協議会委員の意見	<p>○授業参観をして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の子どもたちの態度がとても良いと思った。しっかりと課題と向き合って学習しようとしていた。学習態度が内容定着につながっていると思う。</li> <li>・6年生の授業で、子どもたちがグループで課題を解決させるために話し合い、子どもたちだけで学習を進めているのが素晴らしかった。</li> <li>・視覚的な支援があり、分かりやすい授業が展開されていると感じた。</li> <li>・学習を進めるうえで、児童間の差が大きいことが考えられる。分からない時にすぐ聞ける、解決できる環境を構築することが大切だと思う。</li> </ul> <p>○学校運営中間評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケートで、教員の肯定感が高いというのがよいと思う。それだけ教員の思いが詰まった指導が成されているということであると思う。</li> <li>・アンケート通じて明らかになった課題に対して、解決を図るために教員が取り組んでいるのがよいと思う。</li> <li>・学習時間やゲームの時間、きまりを守っているかの評価を見て、本当にこんなに高いのかと思った。自分が子どものときは、もっとできていなかったように思う。</li> <li>・学年が上がるにつれて自己肯定感が落ちてきているが、これは年齢と心の成長が関係していることも考えられるのではないかと。大きくなると様々なことが見えてくる。周り自分を比べ、落ち込むこともあるが、それが成長の過程である。授業でフォローしていくことで、児童の自己肯定感をあげていきたい。例えば、高学年の児童に、キャリア教育など先を見据えた教育をすることで、児童の自己肯定感をあげていくなどしてほしい。</li> <li>・子どもたちに毎日を振り返らせ、できるようになったことを問いかけることで自尊感情も上がっていくと思う。</li> <li>・タブレット端末の活用が進み、不登校の児童もオンラインでつながることで居場所ができていくと感じた。</li> <li>・コロナ禍で、不登校の児童が増えてきている。生駒市はのびのびほっとルームが開設されているが、そこのつながりはどうなっているのか。今は、集団につながることが難しいという子どもが増えてきている。集団の中には入れなくても、リモートならばつながれるという子どももいる。そういった子どもに、教師としてどう関わっていくのかを考えてほしい。</li> <li>・「適切な時間での家庭学習」について評価が低かったが、学習は、家庭環境が大きく影響すると思う。</li> <li>・放課後子ども教室の運営にもかかわっているが、低学年の児童ほど個人差が大きい。これは家庭の力が大きく作用しているのではないかとと思う。</li> </ul>	
その他参考となる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の前に授業参観を設けた。</li> <li>・定数内の教員が配置されないことが予想されることを受けて、市教委に要望書を提出することで合意した。</li> </ul>	

